

103-272

問題文

76歳男性。1年前より心房細動にて内科を受診してワルファリンを服用しており、その処方では以下のとおりであった。朝食後に忘れず服用していること、他科受診及び併用薬はないこと、納豆は食べていないことを薬剤の交付時に確認していた。

(処方)

ワルファリン K錠 1mg 1回2錠 (1日2錠)

1日1回 朝食後 56日分

本日、本人が妻と一緒に処方箋を持って薬局を訪れた。処方箋を確認したところ、1回2錠から1回4錠に増量となっていた。本人によると、血液検査の結果が悪かったため、増量になったとのことであった。

また、妻によると、1ヶ月半前から毎食前にジュースを作って飲ませているとの話であった。

問272

ジュースについて確認したところ、次の食材が含まれているとのことだった。薬剤が増量になった原因として考えられる食材はどれか。1つ選べ。

1. グレープフルーツ
2. ニンジン
3. ブルーベリー
4. ホウレンソウ
5. ヨーグルト

問273

前問と同じメカニズムによる相互作用の例として、適切なのはどれか。1つ選べ。

1. リファンピシンは、ワルファリンの肝取り込みトランスポーターを阻害する。
2. ミコナゾールは、CYP2C9を誘導してワルファリンの代謝速度を上昇させる。
3. メナテトレノン は、ワルファリンによる血液凝固因子の生合成阻害作用と拮抗する。
4. アスピリンは、ワルファリンによる血小板凝集抑制作用と拮抗する。
5. コレスチラミンは、腸管内でワルファリンを吸着することで吸収を阻害する。

解答

問272：4問273：3

解説

問272

問273 とまとめて解説します。

問273

ワルファリンは、ビタミン K 依存性凝固因子に作用する抗凝固薬です。ワルファリンが「増量」になっていることから、効果が抑制されたと考えられます。ビタミン K が過剰に存在すると、ワルファリンの効果が抑制されます。

ビタミン K が過剰に含まれる食品で、ワルファリン服用中に注意すべき食品として、納豆、及びクロレラがあります。又、青汁などの緑黄色野菜のジュースも注意が必要です。このメカニズムと同様の相互作用の例としては、ビタミンK製剤とワルファリンの相互作用があげられます。

以上より、問272 の正解は 4 です。
問273 の正解は 3 です。